

鈴木 隆（愛知県立大学）  
t\_suzuki@for.aichi-pu.ac.jp

## 中国共産党支配と習近平政権の課題

### 1. はじめに

・「改革開放時代」の政治潮流と、習近平政権の特徴を手がかりとして、中国政治の将来を考える

### 2. 「改革開放時代」の政治潮流

#### ① 中華人民共和国の政治史の時期区分

a) 毛沢東時代：建国～毛沢東の死（1949～1976年）、「第1世代」（毛沢東、周恩来）

b) 改革開放時代＝鄧小平時代

- ・前期（1980年代）、「第2世代」（鄧小平、陳雲）
- ・後期（1990年～2000年代）、「第3・4世代」（江沢民、胡錦濤）→〈鄧小平なき鄧小平路線〉

c) 「新時代」＝習近平時代？（2010年代～現在）

#### ② 「国家－社会関係」の変遷と制度改革の基本方針

a) 社会の自律性の増大

- ・毛沢東時代：政治、経済、社会、文化の全体主義的な一元体制
  - ・改革開放時代：政治、経済、社会、文化の相対的弛緩（価値、資源、行動主体）
- 共産党による排他的支配（権威主義的政治体制）⇔ 経済、社会、文化の多層多元的状况

b) 政治・行政運営のキーワード

イ。「規範化」「法治」：法や規則に基づく手続き的正当性の拡大、rule by law

- ・人権保障を重視する rule of law とはいえないが、予測可能性は増大

ロ。「民主」：政治参加と言論の「自由」の部分的拡大

- ・社会経済エリートを中心に民意の表出チャンネルの設定、政策決定における技術的合理性の向上

・鄧小平の名言

－経済改革：「黒猫でも白猫（黄色い猫）でも、鼠を捕る猫が良い猫である」

－政治・行政改革：「革命政党にとって、恐ろしいのは人民の声が聞こえないこと、一番恐ろしいのはしんと静まりかえっていることである」

ハ。「愛国」（とくに、改革開放時代後期）

- ・ナショナリズムの政治的機能：国民心理における一体感と平等観念の扶植
- ・格差やエスニック問題に由来する社会的亀裂の拡大、深化

→政治的遠心力を増す社会には、「現実」を糊塗する煙幕と国民集団を凝集させる接着剤が必要

i. 指導者の権力継承の制度化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平和的継承：江沢民→胡錦濤→習近平</li> <li>・中央政治局常務委員会での次期総書記候補の育成</li> </ul>
ii. 幹部の任期制・定年制の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家主席（1期5年、2期10年までの憲法規定）</li> </ul>
iii. 官僚機構の分業化・専門化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央政治局常務委員間での分業指導体制</li> <li>・公務員制度（党と国家の人事・組織の形式的区別）</li> </ul>
iv. 社会の利害関心の表出メカニズムの整備 党と支配体制への政治的取り込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陳情制度（「信訪」）</li> <li>・「3つの代表」、「統一戦線」政策の拡充</li> </ul>

### 3. 習近平「新時代」の変質

#### ①「規範化」「法治」「民主」の方向転換：集権・形骸・抑圧のベクトル増大

i. 次期指導者候補の政治局常務委員会入り、見送り（2017年10月、共産党19回党大会）  
→権力継承ルールの変更、継承の不透明化

ii. 国家主席の任期制の廃止（2018年3月、憲法改正）  
→2022～2023年以降も、習近平、ポスト維持の可能性

#### iii. 習近平への個人集権

- ・「領導小組」制度の乱発、党中央軍事委員会主席制度の明確化（19回党大会での党規約改正）
- ・「習近平同志を核心とする党中央の権威と集中統一領導の擁護」（2006年10月、18期6中全会）

→〈核心〉、ワントップの制度的確立

- ・〈核心〉から〈領袖〉への発展は？
- －「人民領袖愛人民」、『人民日報』1面見出し（2019年8月25日付）
- －党主席制の復活（1982年廃止）

#### iv. 社会監視・抑圧態勢の強化、「国家－社会関係」の双方向的性格の喪失

- ・「デジタル＝レーニン主義」：一元的高度管理社会の統治理念
- －言論統制、ソーシャルメディアの検閲、監視カメラ、高度な個人特定システム
- －19期4中全会（2019年10月）決議
- 政治行政・経済活動・社会管理など、各分野におけるビッグデータ、インターネット、人工知能などの積極活用への関心と注目の高さ

→中華の文化・思想伝統への部分的回帰を含む、〈古臭い〉統治理念を実現するための、〈新しい〉最先端の科学技術の積極的な開発と利用

- ・反面、強権的支配に一般的な落とし穴にも、はまりつつある

→安定統治に不可欠な、社会に関する正確な情報収集能力の低下（忖度による都合のいい情報選択）  
顔は見分けることができても、心までは読み取れない（2019年11月、香港区議会選挙）

#### ②「愛国」：漢族中心主義的国家意識の肥大化と自己統制力の低下、「強国」の強調

- ・「中華民族の偉大な復興」の宣伝スローガン

- ・国民集団における国家的自尊心の高まり（例：世界的プロジェクトとしての「一帯一路」）

→ 対外ナショナリズムと対内エスノナショナリズムの強力放射、自己主張の統制力の低下  
－ 米中貿易戦争、近隣諸国との領土紛争  
－ 民族問題（ウイグル、チベット）、香港統治、台湾問題へのアプローチ

#### 4. おわりに：中国政治の課題と展望

- ・ 1989年の天安門事件のような、または、今日の香港でみられるような、大規模な反体制運動が中国本部で起こる可能性は？

→ 共産党体制が短期間のうちに不安定化することは、考えにくい

##### ① 共産党支配の正統性：「豊かさ」「便利さ」「偉大さ」

- ・ 支配体制の抑圧手段の強化＋社会の側の現状肯定の保守的心理と国家的自尊心
  - － 中高年：改革開放以前の、貧しく不便な生活を覚えている
  - － 若年：既存の秩序や仕組みが揺らいで、自分のライフチャンスへの将来不安の増大は望まない
- 「色々な不満はあるが、今のほうがマシ」

##### ② 中長期的課題：表面的な安定とは裏腹に、大きな困難が存在

- ・ 来るべき政治改革のきっかけ？ 適切に対応できない場合は、体制全体の不安定化

##### a) 国家統合の問題：チベットと新疆ウイグルの民族問題、香港統治

##### b) 低成長時代における富の分配

- ・ 中国経済の停滞見通し、少子高齢化と労働力人口減少、社会経済改革の遅れ
  - ・ 税財政、社会保障、戸籍制度、国有企業をめぐる制度改革
- 中央－地方関係や政府による経済運営の見直しなど、国政全体を緩やかに変えていく可能性

- ・ 他の政治改革の争点候補（例：国家統合、最高指導者の決定）に比べて、穏健なテーマ

→ 勝者と敗者がはっきりしない＝「民主化の軟着陸」の可能性が高いというメリット  
利害関係者同士の対立の構図、および、勝者と敗者の結果がはっきりと識別できる闘争のゲーム（ゼロサムゲーム）は、暴力を含む政治闘争の激化、対立と混乱の長期化の危険性が高い

##### c) 最高指導者の継承ルール、仕組みづくりの早急な整備

- ・ グローバルな政治現象としての指導者集権（安倍、トランプ、モディ、プーチン、エルドアン）
- ・ 強すぎるリーダーの陥り易い罠：カリスマ経営者の後継者育成と企業統治の問題に類似  
自身のライバルになるのを恐れ、ひ弱なサブリーダーを重用する一方、権力の継承の仕組みを十分に整えないままに、時間を浪費する傾向

→ 習近平：「中国のゴルバチョフ」にならないことを明言、「第2のブレジネフ」の可能性は？

－ ブレジネフの長期安定政権（「停滞の時代」）

－ ゴルバチョフによる一発逆転のショック療法的改革、ソ連解体の憂き目

以上